

親子でまなぶ 子どもの防犯ガイド

捜査のプロが教える!

でまなぶ

発行 角川学芸出版 / 発売 角川書店

はじめてでも安心

ワンポイント指導マニュアル

制作 角川学芸出版

子どもと一緒に防犯について考える

P2-P25

保護者ページ
P36-P47

いっしょにあそぼう

指導のポイント

保護者や先生が、子どもとコミュニケーションをはかりながら、危険について認識させます。

子どもたちにゲームをさせる

P2-25のゲームの解答・解説はP36-47にあります。保護者や先生は、子どもたちに遊ばせながら、解説ページの内容を説明しましょう。

各ゲームのイラストを使って子どもたちに防犯を考えさせる

P2-25のゲームページに描かれているイラスト等には、防犯に関する情報が大量に含まれています。そのため、ゲームで遊ばせるだけでなく、子どもたちに各イラストに描かれている様子を質問しながら、防犯に関する理解を深めさせましょう。

本を持って外に出る

P2-25のゲームページは、野外学習等で危険な場所を教える教材としても有効です。危険な場所で、イラストの内容を見せながら防犯の説明をすれば、小さな子どもの理解が高まるでしょう。(この方法は、地域防犯マップを作る場合にも有効です)

最新の事件を
確認する

(保護者や先生
へのアドバイス)

P36-47の保護者ページには、最近起こった子どもが被害となる重大な事件を紹介していますが、子どもが被害となる事件はあとを絶ちません。そのため、保護者や先生は子どもが被害となる事件を常にチェックしておき、子どもたちへの指導に役立てる準備をしておきましょう。

P32-35

いっしょにつくろう

指導のポイント

親子が一緒になって、書き込んだり、家の目につく場所に貼ることで、防犯に関する共通認識を持つことができます。

近所のあぶない場所を確認しよう (P32)

このページは、地域防犯マップを作る際のメモ用紙としても使うことができます。

おうちのちかくのぼうはんでんわちよう (P35)

小さなお子さんの場合には、保護者や先生が書いてあげて、それぞれの電話番号はどのようなときに利用するのかを説明してあげましょう。

保護者や先生が防犯について考える

P58-P59

子どもが被害にあったときどう対処すべきか

指導のポイント

被害にあった子どもは、身体的にも精神的にもダメージを受けています。そのため、保護者は自分ひとりで対処しないで、学校や児童相談所などの人たちと一緒に、子どものケアを行うように心がけましょう。

子どものちょっとした変化に注意する (P58)

保護者や先生は、児童相談所のスタッフと話し合う場を設け、いじめや犯罪の被害にあった子どもたちの変化などの情報を入手することが大切です。それらの情報をまとめたマニュアル(またはプリント)を各家庭に配布し、保護者は常に子どもの変化に注意するよう心がけましょう。

また、本書で紹介したボイスレコーダーを使った親子の交換日記など、親には直接話せない内容でも伝えられる手段を用意するなど、子どもの内面的な声を受けとめる機会を増やすことも重要です。

親子でまなぶ 子どもの防犯ガイド

捜査のプロが教える!

でまなぶ

発行 角川学芸出版 / 発売 角川書店

はじめてでも安心

ワンポイント指導マニュアル

制作 角川学芸出版

保護者や先生が防犯について考える

P48-P49

知り合いの大人が犯罪者になる可能性

指導のポイント

子どもが被害者となる最近の事件では、近所のお母さんが犯人となるなど、今までの常識では考えられなかったような身近な人物が加害者である事件が多発しています。そのため、保護者や先生、地域の自治会などの大人たちは、定期的に話し合う場を設け、地域の子どもの防犯に関する共通認識を持つ必要があります。

近所の大人たちによる防犯への取り組み (P49)

子どもたちに対して「知らない大人の人に声をかけられたら逃げる」などの指導を行っている現在、「子ども110番」「見守り隊」「防犯パトロール」等のボランティアをしている大人たちの存在を子どもたちに上手に教える必要があります。

また、保護者たちにも地域のボランティア活動をしている人たちの情報リストを作成して配付するなど、認知や理解を深めてもらうことも重要です。そのため、「学校」「PTA」「地域の防犯ボランティア」などが一堂に会する場を設けるなど、地域の子どもの防犯に関するコミュニケーションを活発に行っていきましょう。

このほか、学校周辺の地域防犯マップを作成して各自に配付するなど、地域の防犯に関する共通認識を持ったり、お互いの防犯に関する情報交換を行うことも重要なことです。

P50/P57

携帯電話を利用した子どもの防犯アドバイス

指導のポイント

キッズケータイ等の登場によって、子どもに携帯電話を持たせざる保護者が増えています。学校側では、授業中に電話が鳴ったり、メールをする子どもが出て、授業の妨げになる可能性があることから、消極的な対応をすることが多いようです。しかし、周りに住居がない通学路がある地域や、学校帰りに塾に行く子どもにとっては、携帯電話は有効な防犯グッズとなりますので、「学校」と「PTA」の話し合いで、子どもに携帯電話を持たせる際のルールを決めるなどの対応を考えていきましょう。

子どもへの安心な携帯電話の持たせかた (P50)

子どもたちに携帯電話を持たせると、ゲーム機のように携帯電話を使って遊んでしまう危険性があります。そのため、保護者と学校側とで話し合い、子どもたちが携帯電話を利用する際の共通ルールを作りましょう。

共通ルールの例

授業中は子どもから携帯電話を預かる

携帯電話が防犯グッズとして必要になるのは登下校時です。朝のホームルームの時間に先生が携帯電話を回収・管理し、帰りのホームルームで返却するなど、学校内でのルールを決定しましょう。

携帯電話の一般マナーを子どもに教え込む

電車内での利用や歩行中にメール等を行わないなど、携帯電話を利用する際を守るべき一般的なルールやマナーを子どもに十分理解させる授業やセミナーを開きましょう。

また、保護者と学校側で作った共通ルールをまとめたマニュアル(またはプリント)を各家庭に配付し、常に子どもたちが携帯電話を正しく使っているのかを確認しましょう。

出会い系や有害サイトへのアクセス禁止 (P50)

子どもが持つ携帯電話を、アダルトサイトにアクセスしたり、出会い系サイトからの悪質メールが届かないようにする設定をすることができます。設定方法は各キャリア(携帯電話会社)によって異なりますが、設定方法自体は誰でも簡単に行うことができます。キャリア別の設定方法をまとめたマニュアル(またはプリント)を各家庭に配布し、保護者が責任を持って携帯電話の設定を行うようにしましょう。

常に最新情報の確認を

携帯電話の進化は目まぐるしいほど早いです。保護者や先生は定期的に携帯電話会社が提供するサービス内容や子ども向けの防犯対策についての情報を入手しておきましょう。

親子でまなぶ 子どもの防犯ガイド

捜査のプロが教える!

でまなぶ

発行 角川学芸出版 / 発売 角川書店

はじめてでも安心

ワンポイント指導マニュアル

制作 角川学芸出版

地域防犯マップを作る

P26-P31

地域防犯マップをつくって きんじょをしらべよう

指導のポイント

地域防犯マップづくりは、保護者や先生と子どもたちが、地域の防犯について共通認識をもたせる一番効果的な方法です。とくに、下記2点が防犯マップづくりの重要ポイントになります。

危険な場所の共通認識を持つ

防犯マップ作りをする際に、保護者や先生と子どもたちが地域を調べることによって、その地域の危険な場所などを確認し、共通認識を持つことができます。

地域ボランティアとのコミュニケーション

「子ども110番」「見守り隊」「防犯パトロール」などの地域防犯のボランティアの人たちを調べることによって、保護者や先生と子どもたちは、危険から身を守る場所の共通認識を持つことができると同時に、地域ボランティアの人たちの名前を聞いたり、写真を撮らせてもらうことによって、相互の認識やコミュニケーションも円滑になります。

地域防犯マップのつくりかた

事前準備

P26を参照して、地域防犯マップ作りに必要なものを用意します。
また、P28-31のカット集をカラーコピーするなどの準備もしておきましょう。(作る地図の大きさに合わせて縮小コピーをするとよいでしょう)

子どもたちに防犯マップの作り方を教える

P27は子どもたちでも読める、地域防犯マップづくりのマニュアルです。実際に防犯マップをつくる前に、子どもたちにこのページを読ませて理解させましょう。

地域防犯マップのエリアを決める

防犯マップを作る子どもの行動半径だけの面積の地図を作ればよいのですが、子どもの体力等も考慮してエリアを決めましょう。(複数の子ども&家族と担当地域を分割して防犯マップを作る方法もあります)

決めたエリアの道路マップを用意する

市町村レベルの地図帳などを使って、防犯マップを作るエリアの道路マップ(白地図)を作ります。(保護者や先生が鉛筆で下書きをしておき、子どもたちにマジック等で描かせる方法もあります)
また、パソコンが得意な方なら、インターネット上にある地図データをプリントしてベースの地図を用意する方法もあります。

外を歩いて資料を作る

保護者や先生と子どもたちが一緒になって、防犯マップのエリアを歩きながら、P26の囲み記事を参考にしながら、下記の内容について調べていきます。

その際、メモ帳やカメラ(インスタントカメラやデジカメが便利)を持参し、目的の場所や人物についてメモを取ったり、写真撮影をするとよいでしょう。

地図を完成させる

調べた資料をもとに防犯マップを完成させます。

《防犯マップで調べるものとそのポイント》

危ない場所

(昼間は安全でも夜になると危険な場所もあります)
(子どもの目線で見ることも重要)
(通学路の抜け道なども確認しておく)
(自動車は交通事故だけでなく連れ去り犯罪等でも危険ですので、とくに注意させます)

子どもを守ってくれる人や場所

(地域ボランティアの人には、あいさつをして名前や顔を覚えてもらいましょう)
(「子ども110番」の家などの看板やシールを子どもに覚えさせましょう)

防犯マップ 完成のポイント

素材を貼る
撮影した写真やカット集のイラストを最初に作った道路マップに貼る。

危険の内容別に色分けして塗る
「危ない道」「死角になっている場所」など、危険の内容別に色を塗り、そこがどのように危険なのかを書き込みます。

親子でまなぶ 子どもの防犯ガイド

捜査のプロが教える!

でまなぶ

発行 角川学芸出版 / 発売 角川書店

はじめてでも安心

ワンポイント指導マニュアル

制作 角川学芸出版

地域防犯マップを作る の続き

自由研究の場合 夏休みの自由研究で防犯マップを作る場合には、別の模造紙にそのエリアの防犯についてまとめるとよいでしょう。(その場合、撮影した写真はこちらに貼るとよいでしょう)

自由研究でのまとめ方の例

危険な場所

防犯マップに色分けした内容別に整理する。
(場所 / 写真 / どのように危険なのかの説明)

子どもを守ってくれる人

「子ども110番」「見守り隊」「交番」など活動別に整理する。
(名前 / 写真 / 住所 / コメント 等)

地域防犯マップを作る

P26-P31

地域防犯ノートを作ろう

指導のポイント

子どもたちが自由研究等で地域防犯マップを作る場合、「地域防犯ノート」という形にまとめる方法もあります。

用意すると便利なもの

・A4サイズのクリアブック
(それぞれ書き込んだ内容を整理してファイリングができる / 一部分を失敗しても大丈夫)

地域防犯ノートのまとめ方の例

地域防犯マップ(A4サイズ)

子どもを守ってくれる場所と人

- ・交番や児童館など
- ・「子ども110番」(個人宅 / コンビニ / 商店 / 銀行 等 テーマ別に整理しても可)
- ・「見守り隊」「防犯パトロール」

あぶない場所(テーマ別に整理する)

- ・事件があった場所や不良のたまり場
- ・工事現場等の危険な場所
- ・路上駐車が多い場所
- ・人が歩く道から死角になる広場
(寺社の森や公園内の死角などもあり)
- ・ガードレールのない道
- ・街灯がなく夜歩くのに危険な場所